第106回 私のスケッチブック

「欧州で最も中世を感じさせる街角」

プラハ（チェコ）

私が初めてプラハを訪れた時は、SARSと云う中国発の急性呼吸器不全を引き起こす感染症が大流行し、WHOがパンデミックを恐れた時代でした。フランクフルトから空路プラハに入りますが、機中で自らの体調等を記入する申告書を渡されて、我々は真面目に記入して入国審査場で提出。ところが多くの団体客達は、訳も判らないままにきちんと対処していませんから…全員入国出来ず！最終的に飛んで来た飛行機で戻される始末でした。当時のチェコはEUにも未加盟で規律の厳しい時代だったのでしょう。

プラハは、1346年にカレル1世が神聖ローマ帝国の皇帝となって首都に。カレル橋の建設も始まり、ヨーロッパ最大級の都市に発展し「黄金のプラハ」と賛美されました。何しろボヘミア文化と独自のスラブ文化が融合し、艶やかなバロック建築の尖塔が沢山そびえて町全体が華やかです。

私達のホテル近くの火薬塔からプラハ城までの2.5kmは、「王の道」と呼ばれる歴代国王の戴冠パレードが行われた道筋で、散策するとプラハ観光は出来た!! とも云われる賑わい。

この作品は、旧市街広場と聖ミクラーシュ教会を描いています。チェコの英雄ヤン・スフの銅像を取り囲むように、天文時計で有名な旧市庁舎やティーン教会と共に観光客が沢山集まるスポット。途中で小腹が空いたら…トゥルデルニークがお奨め！ドイツのバウムクーヘンに似た、棒に巻き付けて焼いたお菓子とCafeは如何ですか。

カレル橋を渡りながら聖人達の像を眺めていると、右手に世界最古で最大の城…プラハ城が見えてきます。プラハの街並みは、赤い屋根に埋め尽くされてお伽の国の様な可愛らしい街角、パリにも引けを取らない欧州の華です。

時間に余裕があれば新市街にも足を延ばしてください。「プラハの春」や民主化が始まったヴァーツラフ広場は歴史の舞台。

延原 愼吾

1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
http://www.urban.ne.jp/home/nobu36

水彩画　延原　検索